

経済成長の特徴と要因はなにか？

萩久保 直樹

1. はじめに

近年、中国は物凄い勢いで経済成長を続け 2010 年には中国の GDP が日本を抜きアメリカに次ぐ世界第 2 位の経済大国になった。ここではその中国が経済大国になった経済成長の特徴と要因は何かということをも南・牧野編 (2012)を参考にして述べたい。

2. 経済成長

中国は様々な改革を行い 1978 年～2010 年の 32 年間の年平均経済成長率は 10.0%に達し世界でも類をみない高成長を記録している。5 年間隔でみると、成長率がもっとも低かったのが 85～90 年の 7.9%で最近の 5 年間は 11.2%を記録している (南・牧野編 2012, p15)。このような長期にわたる高成長を維持した結果、中国の GDP は 2005 年から 07 年にかけてそれぞれフランス、イギリス、ドイツを上回り、2010 年にはとうとう日本を超えて世界第 2 位の経済大国に浮上した。そして中国の成長が今後多少減少しても、2020 年代には米中逆転が起きるのではないかという予測が相次いで発表されるようになった (南・牧野編 2012, p15~16)。

3. 特徴と要因

経済成長の要因を供給面と需要面で分けて考える。・供給面 中国において産業構造が農業から生産性の高い非農業へ移行したこと、計画部門が縮小したことによって労働者の士気が向上したこと、対外開放の結果、相対的後進性の有利性を活かし外国から優れた技術を導入したことなどが、総要素生産性成長率が高い理由として挙げられる (南・牧野編 2012, p16)。・需要面 中国の総需要の構成は国際的に見て 2005 年から 2009 年までの期間をブラジル、ロシア、インド、日本、韓国、アメリカと比較してみると投資志向、輸出志向、外資依存という特徴があった。そして、中国の高い投資率は高貯蓄率によって支えられている。中国の国内総貯蓄率は 50.5%で 30%のロシア、インド、韓国の水準を大きく上回っている。1990 年代には貯蓄の主たる供給源は家計にあったが 2000 年代以降は企業からの貯蓄も増加している (南・牧野編 2012, p18)。

4. 課題

中国は高い経済成長を続けながらも大きな課題がある。それは、官僚の腐敗、インフレと住宅価格の高騰、高齢化の問題だ。政府や共産党幹部の横領や汚職などは政府に対する信頼性を失わせ、社会の安定性と失う。次にインフレと住宅価格の高騰に対する不満と不動産バブルがいつはじけるかという不安である。三つ目に長期的な問題として、急速に進む人口の少子高齢化がある。これは労働供給の制約と貯蓄率の低下を引き起こす (南・牧野編 2012, p22)。

5. おわりに

私は中国の経済成長の特徴と要因はまず農業から生産性の高い非農業へ移行したことにあると考える。なぜなら農業から工業へシフトチェンジしたことにより格段に生産性が高まった。そして各企業がだんだん大きくなっていき中国という「国」を支えるようになったと思うからである。中国の国内総貯蓄率がすごく高いことに驚いたと同時にこの貯蓄率が経済成長の大きな要因ということが分かった。貯蓄率

が高いからこそ投資ができ外貨を得ることができるのである。以上のことが中国の経済成長の特徴と要因であろう。

<参考文献リスト>

南亮進・牧野文夫(2012)『中国経済入門 世界第二位の経済大国の前途』日本評論社